



神無月 かなづき

10月になりました。インフルエンザによる学級閉鎖が続く、ご心配をおかけしています。急なことにもかかわらずご協力いただき感謝しています。

どの学年にも風邪症状が増えています。感染の広がりを防ぐために、体調が優れないときには、自宅での静養や受診にご協力ください。

【9月28日(木) 来年度入学する児童の就学時健診がありました。来年の入学生は120名、4クラスの予定です。】



通信表について

終業式の日には、1学期の通信表が渡されます。通信表は、公定帳簿ではないため、必ず作らなくてはならないというものではありませんが、学期ごとのお子さんの様子を家庭へ伝えるために多くの学校で作られてきました。中には、通信表は作成しないで、保護者の方との面談を行うのみという学校などもあります。

また、評定については、小学校では3段階で行い、中学校では5段階で行います。学校での学習や生活の様子をご家庭に伝える役割として、「子供の頑張りを認め、励ます」という目的で作成しています。

通信表に付く1・2・3の数字(本校では3段階です)は、評定と言われます。その評定を出すために、教科ごとに学習状況を評価していきます。(1・2年生は発達段階や学習の内容から、評定は出さずに、観点別に「◎ 学習のめあてを十分に実現した」・

「○ おおむね実現した」・「△ 努力を要する」というように表すことにしています。)

評価をするに当たっては、学習指導要領で示された3観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」に沿って、その目標の達成度を図っています。通信表には、各教科等の特性や学習内容に即してこれらの観点が具体的に書かれています。学習到達度が十分満足できる状況なら◎、おおむね満足できる状況なら○、努力を要する状況なら△という評価をします。

これについては、テストの点数だけではなく、授業中の発言の内容や取り組みの様子、家庭学習の状況、提出物やノートの記述の内容などについても記録しておき、総合的に判断しています。

そして、この観点別の学習状況の評価を基本として、総合的に評定という数字で表します。しかし、ただ、数字だけでは測り切れないことも多く、子供たち一人一人の顔を思い浮かべながら頭を悩ませることになります。

また、総合的な学習の時間、外国語活動(英語、3・4年生)、道徳科は、その学習内容の特質上、数字で評価することはそぐわないとされていて、学習の状況を文章で記述することになっています。3年前から高学年の教科として加わった外国語(英語)は、評定を出します。

さらに、3観点の中で、「主体的に学習に取り組む態度」は、子供自身が粘り強く学習に取り組む中で、自分自身の学習の状況を振り返り見直すという面を評価することになりました。これらのことに伴い、評価の仕方(通信表の作成)については、担任だけでなく全ての教職員で幾度も話し合い共通の認識のもとに取り組んでいます。

通信表は、ここまでの学習や生活を振り返る資料でもあります。(先生にとっては自分の学習指導などを見つめ直すものでもあります。)学年の折り返しに、自分のこれまでを思い起こして、今後に生かしていくことが大切です。学校では、一人一人との面談等を通して「自分の課題に気付いて自分で解決する力を育てる」機会とします。ご家庭でも、お子さんの取組を認め、励ましながら、ぜひ親子で今後につながるような話し合いをしてください。

なお、通信表の総合所見、総合的な学習の時間・外国語活動・道徳科の文章による所見は、年度末のみとしています。

